



松本恵司さん

「造船のまち相生」の成り立ちを、郷土史を研究する相生市出身の高校教員、松本恵司さん(63)＝三木市＝がレポートにまとめ、同市立歴史民俗資料館(相生市那波南本町)の広報紙で発表した。今から100年前の1916(大正5)年、神戸発祥の一大総合商社「鈴木商店」が資本を投じ、規模を拡大していった造船所の様子を、当時の図面や写真などを交え解説している。(杉山雅崇)

# 相生の造船業 礎は鈴木商店

## 100年前、資本投入機に発展

### 三木市の高校教員・松本さん発表

同資料館の歴史講座の講師も務める松本さんが、相生の造船と鈴木商店の関係を多くの人に知ってもらおうと執筆した。

相生の造船業の始まりは07年(明治40)年、相生村(現在の相生市相生地区)の村長だった唐端清太郎(1862～1920年)が立ち上げた「播磨船渠」(現・IHI相生事業所)。当時は、主に船舶の修理を請け負う小さな造船所だった。一時は業績不振に陥ったが、増加する造船需要に目を付けた鈴木商店が資本を投入。16年には、播磨船渠の事業を全て継承し「播磨造船所」を設立した。



船台や工場の建設が進む1917(大正6)年ごろの造船所

### 歴史民俗資料館HPに「功績に光を」

17(大正6)年に作船不況に見舞われたられた造船所の拡張計が、相生湾の埋め立て画を見ると、新たな船や工場増設は計画通り台や複数の工場建設などに進んだ。松本さんの報告が盛り込まれ、鈴木レポートは、不況時に商店が当初から大規模も造船所の拡大を推し進めた、鈴木商店の豊富な資金力や勢いを浮き彫りにしている。



1932(昭和7)年ごろの造船所。鈴木商店の投資により大規模な施設へ変貌した(いずれも相生市立歴史民俗資料館提供)

「(播磨造船所の設立から)100年という節目に、相生の発展に寄与した鈴木商店の功績に光が当たれば」と松本さん。

レポートは、同資料館のホームページで閲覧できる。トップページの右下にある「歴史民俗資料館だより」の「2016年2月」をクリックする。全31ページ。閲覧は無料。同資料館 0791・23・2961